※令和３年度以前入学生用

学校番号	2004

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	日Ｂ309「詳説日本史Ｂ」（山川出版社）						
副教材等	最新日本史図表（第一学習社） 重要語句チェックリスト（啓隆社） 日本史総合テスト（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本の歴史の展開を諸資料に基づきながら地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての理解を深めさせることによって、歴史的思考力を養う。

２　学習の到達目標

(1)先史・古代から現代に至る歴史の展開を、世界各地の歴史や地理との関連を重視した世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく把握する。
(2)日本史の形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する人物としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1章　日本文化のあけぼの	①文化の始まり ＊人類文化の発生、日本列島における旧石器文化･縄文文化の時代の社会を理解する。 ＊打製石器･磨製石器･縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。 ②農耕社会の成立 ＊大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ＊集落･墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 ③古墳とヤマト政権 ＊地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ＊ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ＊古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	○	○	○		a: 下記①～③について意欲的に考察できているか。 ①旧石器・縄文文化の成立について ②弥生文化の成立とその後の日本列島の社会構造について ③弥生時代以降、一部の強力なリーダーの登場と古墳建設へ向う経緯について b:下記①～③について多面的な視点で因果関係を伴いながら考察できているか。 ①文化の成立を自然環境や大陸との関わりについて ②農耕社会の成立と社会構造の変化について ③古墳時代の特徴について c: 下記①～③について具体例や歴史的用語を用いて説明できているか。 ①適切な考古資料(黒曜石など)を提示し文化の特色 ②弥生文化の成立とその特徴 ③古墳時代→ヤマト政権成立→王朝国家としての日本の成立の過程 d:旧石器・縄文・弥生・古墳時代のそれぞれの特徴について理解できているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

1学期	第2章　律令国家の形成	①飛鳥の朝廷 ＊ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②律令国家への道 ＊律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ＊律令に基づく国内統治体制について理解する。 ③平城京の時代 ＊律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的･多面的にとらえて考察する。 ＊平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ④天平文化 ＊天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ⑤平安王朝の形成 ＊平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ＊東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁･貞観文化を理解する。		○		○	b:下記①～⑤について考察できているか。 ①仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて、推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の形成について、考察できたか。 ②天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程と白鳳文化の形成過程を考察できたか。 ③遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて、平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、考察できたか。 ④唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。 ⑤蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえ、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。 d: 下記①～②について理解できているか。 ①飛鳥・奈良・平安前期の特徴について ②唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義について	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
	第3章　貴族政治と国風文化	①摂関政治 ＊藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ②国風文化 ＊大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 ③地方政治の展開と武士 ＊律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ＊地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。		○	○		b:下記の①～③について考察できたか。 ①藤原北家が権力を掌握していく過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できたか。 ②国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活･文化を理解できたか。 ③文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察できたか。 c:上記の b①～③について、具体例や歴史的用語を用いて説明できているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

1学期	第4章　中世社会の成立	①院政と平氏の台頭 ＊院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治･経済･社会･文化を理解する。 ＊政治の動向、国際関係･経済･文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②鎌倉幕府の成立 ＊鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ③武士の社会 ＊承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。 ＊武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ④蒙古襲来と幕府の衰退 ＊蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑤鎌倉文化 ＊庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。		○	○	○	b:下記①～④について考察できたか。 ①源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができたか。 ②公武関係の変化の背景として、武家政権の変容を見ることができたか。 ③文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。 ④鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察できたか。 c:絵画資料の読解を通じて、土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争について考察し、表現できているか。 d:下記①～②について理解できているか。 ①院政の政治構造や経済・社会・文化について ②鎌倉幕府の成立から衰退までの経緯について	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査
2学期	第5章　武家社会の成長	①室町幕府の成立 ＊南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ＊琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	○	○		○	a:下記①～④について意欲的に考察できているか。 ①日明貿易･日朝貿易の展開、琉球やアイヌの動向について ②流通経済の進展による農業・商工業の発達を踏まえて庶民が台頭する姿をとらえられたか。 ③室町文化の特徴について ④戦国大名の登場について	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

2学期	第5章　武家社会の成長	②幕府の衰退と庶民の台頭 ＊庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ＊諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ③室町文化 ＊武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ＊庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ④戦国大名の登場 ＊応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。					b:下記①～④について考察できているか。 ①鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。 ②惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して、応仁の乱に代表される幕府の動揺や衰退を考察できたか。 ③能・狂言・茶の湯・生花などを例にして、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割を踏まえて室町文化について理解できたか。 ④富国強兵策を推進して、領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて、戦国期の日本の多様性を考察できたか。 d:上記 b:①～④について、基本的な歴史用語を身に付けているか。	
	第6章　幕藩体制の確立	①織豊政権 ＊大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ＊織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。 ②桃山文化 ＊新興の大名や都市の豪商の精神を反映した文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	○	○	○	○	a:下記①～③について、意欲的に考察できているか。 ①鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について意欲的に考察できたか。 ②織豊政権から江戸幕府への歴史的経緯について、意欲的に追究することができたか。 ③幕藩体制の基本的構造について理解しようとしているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

2学期	第6章　幕藩体制の確立	③幕藩体制の成立 ＊江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ＊江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ④幕藩社会の構造 ＊幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。					b:下記①～④について考察できているか。 ①幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。 ②桃山文化の特徴について ③幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係を踏まえて考察できたか。 ④幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。 c:上記 b:①～④について、歴史用語を適切に用いながらその経緯や内容を説明できているか。 d:基本的な歴史用語を身に付け、使用できているか。	
2学期	第7章　幕藩体制の展開	①幕政の安定 ＊17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②経済の発展 ＊幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ③元禄文化 ＊経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	○	○		○	a:下記 b:①～③について考察する際に意欲的に資料の読み取り、用語の意味について学習出来ているか。 b:下記①～③について考察できているか。 ①文治政治への転換から元禄時代･正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。 ②農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。 ③元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、幕府の教学として発展する儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。 d:上記 b:①～④について、歴史用語や美術作品について基礎的な知識を身に付けているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

2学期	第8章　幕藩体制の動揺	①幕政の改革 ＊農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ②宝暦・天明期の文化 ＊江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ③幕府の衰退と近代への道 ＊欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 ＊近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ④化政文化 ＊化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	○	○	○	○	a:下記 b:①～④について考察する際に意欲的に取り組むことができているか。 b:下記①～④について考察できているか。 ①幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。 ②社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえられたか。 ③列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。 ④幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察できたか。 c:上記 b:①～④について、歴史用語を適切に用いて事象の経緯を適切に説明できているか。 d:上記 c:①～④について、基本的な歴史用語などの知識を身に付けているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※令和３年度以前入学生用

3学期	第9章近代国家の成立	①欧米諸国のアジア進出、幕末の変動、明治政府の成立と諸改革、自由民権運動と立憲体制の成立、文明開化など、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程を理解させる。 ②条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、産業革命の進行、社会問題の発生、教育の普及、都市社会の整備などに着目して、19世紀末から20世紀初頭にかけての近代史の展開を理解させる。 ③第一次世界大戦とそれが我が国の経済発展に与えた影響、ワシントン体制の成立と日本の対応、大正デモクラシーのはじまり、日本の植民地の動向など、1910年代の近代史の展開を理解させる。 ④大正デモクラシーの展開のなかでの社会主義運動や労働運動などの活発化、政党政治の推移、関東大震災の影響、大衆文化の形成と社会の変化、大陸政策の転換、昭和恐慌への対応など、1920年代の近代史の展開を理解させる ⑤満州事変、昭和恐慌後の社会と国家主義思想の台頭、日中戦争の長期化と総動員体制の構築、アジア太平洋戦争の展開と戦時下の社会、植民地の動向など、満州事変から敗戦に至るまでの近代史の展開を理解させる。 ⑥国際連合の成立と冷戦の開始、アメリカによる占領政策と諸改革、日本国憲法の制定、朝鮮戦争、日本の独立回復と沖縄、平和運動の展開、50年代の社会と文化など、50年代までの戦後史の展開を理解させる。 ⑦冷戦体制と55年体制の終焉、経済のグローバル化の進展、そして21世紀に入ってからの日本の政治・経済・社会の動向を理解させる。	○			○	a: 下記①～②を意欲的に取り組めているか。 ①1920年代の近代史の展開、満州事変から敗戦に至るまでの近代史の展開、50年代までの戦後史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しているか。 ②冷戦体制と55年体制の終焉、経済のグローバル化の進展、そして21世紀に入ってからの日本の政治・経済・社会の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しているか。 d：下記①～③について、知識を身に付けているか。 ①開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程についての基本的な事柄、19世紀末から20世紀初頭にかけての近代史の展開についての基本的な事柄、1910年代の近代史の展開についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けているか。 ②1920年代の近代史の展開についての基本的な事柄、満州事変から敗戦に至るまでの近代史の展開についての基本的な事柄、50年代までの戦後史の展開についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けているか。 ③冷戦体制と55年体制の終焉、経済のグローバル化の進展、そして21世紀に入ってからの日本の政治・経済・社会の動向についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けているか。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。